

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	グループホーム みどりの郷こんね こすもす		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番1		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりとした時間を提供します、一人ひとりの思いを尊重します、地域と共に支援しますという理念を掲げ、落ち着いた時間の中で入居者様の気持ちの寄り添った介護サービスに努めています。入居者様には食器を洗っていただく、洗濯物をたたんでいただく、散歩が好きななど今までの生活を把握しながら出来る事、やりたい事などに目を向けたケアに取り組んでいます。施設の周りは山や田んぼに囲まれてのどかで落ち着いた雰囲気です。施設には庭や小さいですが池もあり、散歩の際には季節の草花を眺めたり、流れる水に触れながらゆっくり歩く事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・居心地の良い共用空間は、吹き抜けの天井に木の温もりが伝わってくる民宿風の造りである。花や野菜作りにも適しており、テラスは広々としたウッドデッキであり、干し物ができるようにしている。
 ・思いや意向を把握するために、研修会で学んだ「認知症のためのケアマネジメントセンター方式」のアセスメント表を詳細に記入している。きめ細かな情報収集により、実践しやすい様式であり、実践、評価、見直しの介護計画書を作成している。
 ・運営に関する意見を反映するために、定期的な近況報告書に写真を添えて、家族に知らせている。また、年一回アンケート調査を行い、家族の意見を運営に反映している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と		
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように		
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
		3. たまにある				3. たまに		
		4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている		
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
		4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が		
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が		
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が		
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が						
		2. 利用者の2/3くらいが						
		3. 利用者の1/3くらいが						
		4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内の目の届くところに理念を掲げて日々意識する様にしている。職員会議にて入居者様一人ひとりについて話し合い、理念に添ったケアを目指している。しかし、完全には実践できていないところもある	理念は、「一人ひとりの思いを大切する」と明文化している。理念に沿って、介護計画書に個々の思いや意向をプランに反映しているが、全職員の共有はできていない。	理念は、一部の職員ではなく全職員で共有し、日々のケアについて、会議やミーティングの中で、理念を振り返ることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の清掃活動に参加したり、施設で行われる夏祭りは地区の皆様へご案内し、参加していただいている	自治会に加入をしており、清掃活動などに参加。また、子供たちが下校の際に立ち寄り、利用者と触れ合っている。盆踊りや陣太鼓、花火などを通して触れ合いの場としている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みに地域の高校生のボランティアの受け入れを行った。その後、教科課題で認知症の勉強の自習の受け入れも行った	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行っている。施設での行事や日頃の様子などを、写真を交えて説明を行っている。外部評価や家族のアンケート結果などを報告している。会議では出席された方より意見や質問をいただき、運営に意見を活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議が開かれている。メンバーは、家族や地域住民、地域包括の職員などである。運営に対して家族の意見を聞いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加していただいたり、入所の相談をいただき、短期入所の受け入れを行うなどの連携を行っている	運営に対しての疑問点は、推進会議や電話で聞いている。また、行政と短期入所の連携はとれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止について勉強会を行い、身体拘束の具体的な行為を資料に添って確認した。拘束排除マニュアルを作成している。玄関は出来るだけ開放するようにしているが、ホール内の職員が1人の時間帯、夕方など時間によってはやむを得ず行うこともある	身体拘束の勉強会を開き、「拘束をしないケア」について正しく認識をしている。意思疎通の困難な方や立ち上がり防止の検討もしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様に対しての声のかけ方や介護の方法など、身体的や精神的に虐待がない様に、意識し、注意し合い防止に努めている	/	/

事業者名: グループホームみどりの郷こね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の対象の方がいない、支援できていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を交わす際には、契約内容説明後、質問や心配な点がないか伺い、疑問などないように努め、契約書に署名、捺印をいただいている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回行われる運営推進会議の際、にアンケートを実施し、意見や質問、会議で話し合ってもらいたい点など書いていただいている、年に1回無記名のアンケートを実施して意見を伺っている。玄関に意見箱を設置している	3ヶ月に一度、近況報告書に写真を添えて知らせるとともに運営に関する意見をもらうようにしている。また、一年に一度、家族にアンケート調査を行い、運営に対して意見をもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で、意見や要望を聞いている。聞いた意見等は本社に意見を伝えている	定例会議や日々のケアの中で意見を出してもらっている。事業所内で解決できない時は、本社に意見を伝え、運営に反映をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加や、資格取得に向けて勤務の調整などを行っている。勤務希望を取り柔軟な対応を行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の案内を張り出し、参加を促している。外部の研修に数名が参加している。法人内の勉強会を行っているが毎月行っていない		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は行っていない。同じグループ内にグループホームが開所し、開所式などに数人の方が訪問している程度である。研修にてグループホームに訪問したが、その他は交流は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった際には、本人様の自宅や、入所中の施設、入院先などに伺い、相談員の方を通してお話を伺っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談があった際には、家族の方には入所前に施設見学をお願いし、施設についての説明を行い、お話をするなどして希望や心配されている事を伺っている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった際には、当施設の説明と、隣の施設や、グループ会社のパンフレットなどもお渡しして紹介をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に施設内の家事など行っていただいた際などには感謝の気持ちを伝えている。また、人生の先輩に分からない事やについて経験談など伺っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に3ヶ月に1度、普段の様子を写真と共に手紙を書いて送付している。面会に来た際には、心配している事など伺い、説明をしたり、一緒に対応を行っている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が面会に来たり、お盆にはお墓参り、家族の方と外出や外泊をしている方はいるが、回数も少なく、外出、面会が出来ているのは数人である。	かかりつけ医とのつながりや、友人のボランティア、夏祭りでの触れ合い、お盆帰省、馴染みの美容師などの関係の継続支援がある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の人間関係を把握し、入居者様同士が楽しく過ごせる様に、一緒に席に案内している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族が美容師されていて入居者様の散髪に訪問して下さっている。入院加療にて退所された入居者様にはお見舞いに行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日頃の会話、表情、行動からと、家族の方より希望、要望を聞きながら把握に努めている。アセスメントに記録している	思いや意向の把握は、認知症のためのケアマネジメントセンター方式のアセスメント表を用いて家族や利用者から聞いている。一人ひとりの生活歴、好きなこと、できそうなことなど、数多くの項目をきめ細かく収集している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話や、家族の方より生活歴やなじんだ物などをアセスメントに書き込み今までの生活の把握に努め、会話をする時などに活かしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、職員間に情報交換、日々の観察にて、入居者様の居心地の良い場所、やりたい事などを把握して。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成の際には入居者様、家族の方より希望を伺い、計画書に内容を盛りこんでいる。職員会議にて目標が達成出来たかを評価したり、課題やサービス内容の見直しを行っている。	詳細なアセスメント表をもとに、ケアカンファレンスを開き、実行可能な介護計画書を作成している。短期目標が「できているか、できていないか」のモニタリングを行いパソコンで管理し、見直しのプランに繋げている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の変化について、会議で検討した対応や声かけの結果など、また、気づきや変化など入居者様の事について、申し送りノートや個人記録などに記入することにより職員間で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人様より必要物品の購入をしている程度で、入居者様全員の細かな要望にまでは対応できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や本人様の希望で市内の訪問美容師さんに訪問していただき、散髪をしていただいている。佐伯消防署に協力を依頼して避難訓練を行っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族の方の希望があれば、入居前から受診しているかかりつけ医は入所しても変更はせず受診を行っている。定期受診にて入居者様の普段の様子などを報告、相談をしている	利用者や家族の意見を聞いて、利用前の10医療機関をかかりつけ医とするなどの関係を大切に支援した支援である。受診時は日頃の様子を詳細に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務している時は、入居者様の体調の変化を報告し、対応していたが、現在は、看護師が不在である。体調の変化があれば、かかりつけ医に直接相談している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には施設での様子や病状、様子をお伝えしたり、退院の際には、病院の相談員の方から情報をいただいたり連携している。入院中もお見舞いに行き様子を伺っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でどのような対応が可能なのか説明を行っている。重度化の希望書を作成し本人様や御家族様の希望を伺っている	契約時に重度化や看取りについて話し合い、確認書もある。事業所内で2人の終末ケアを行った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変についての勉強会は定期的に行っていない。マニュアルを作成している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が災害時の対応を身につけていない、3月5日消防署の協力をいただき避難訓練や勉強会の実施を行う予定	防災訓練は消防署を招いて行っている。また、連絡網の在り方や夜間想定、利用者の立場になって避難訓練をしている。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分注意し、入居者様が気持ちよい声かけ、対応を心がけている。個人情報の取り扱いにも注意し、個人ファイルは戸棚や引き出しに直して見えないようにしている	一人ひとりのプライドを大切にしたケアを心掛けています。5人の男性が利用しているため、介護方法を工夫するなど配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望、話を傾聴するようにしている。希望をあらわすのに時間がかかっても、ゆっくり時間を取るようにしている。希望を伺うのが困難な方には選びやすいように二者択一にして質問し、希望を伺っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者様の希望があれば、希望に添う様に柔軟の対応をしている。状況によっては希望の添えない事もある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が困難な方も好きな服やこだわりたいスタイルを把握し職員が服を決定している。着替えの際には入居者様の希望の服を着ていただき、その方らしさを保てるように対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が嫌いな食材を把握し、替わりの物で対応したり、献立も入居者様のリクエストを取り入れたりしている。育てた野菜と一緒に収穫したり、野菜の皮むきや味見をしていただきアドバイスいただいている。食器洗いやお盆拭きを行ってくださっている	献立は、利用者のリクエストにできるだけ添うようにしている。食事時間は、マイペースにゆっくり食べてもらっている。時には庭で栽培した野菜を収穫したり、皮むきの手伝いや好みの味付けにするなど配慮している。重度化により、摂食機能に合わせ、食事形態を変えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食べる力を把握し、おかずを刻みにしたり、水分にトロミを付け対応している。水分や食事の摂取を記入する表を作成し、摂取量を把握している。水分摂取量が少ない場合は、寒天を作ったりして摂取をうながしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合わせて食後に口腔ケアを行っているが、毎食後行えていない。夕食後が主になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて入居者様の個別の習慣の把握に努めている。時間ごとにトイレの声かけを行っている。なるべくトイレにて排泄ができる様に手すりの位置を変化させたり、トイレの場所など考慮している	個々の排泄パターンに沿って、トイレ誘導をしている。布パンツ、リハビリパンツ、尿取りパットなど利用者の機能に合わせて対応をしている。排泄の自立者は4人である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、野菜の摂取、牛乳を飲むなどしている。便の状態によっては、主治医に相談している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や入浴日が決まっている。入浴前に入浴の声かけを行って、入浴希望を伺って対応を行っている。入浴剤など活用して入浴が楽しめる様にしている	入浴の希望を聞き、時間帯や入浴剤等の工夫をしている。重度化により介護負担もあるが、事故のないように支援方法の検討をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や、その日の体調を考慮し、ソファー、自室のベッドにて臥床していただいている。夜間は入居者様の好きな時間に就寝する様に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめて薬の説明書のファイルを作成している。しかし、入居者様一人ひとりの薬、副作用について細かな把握は出来ていない		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様や家族の方から伺った生活歴などを参考にしたり、希望を伺って入居者様のやりたい事を行っていただいたり、食べたい物、好きな物を希望した時などに食べていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見など行事などで屋外にでる事はあるが、それ以外は施設内の庭で散歩が殆どである	当事業所は広大な中庭があり、四季折々の花木が植えられ、お洒落なベンチも置いている。利用者が気軽に散歩や日光浴ができるように環境を整備している。中庭での散歩が日常的になっている。また、近隣を散歩し、外気に触れている。	

事業者名：グループホームみどりの郷こね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していない入居者様が殆どである。お金を所持し、希望した物を購入する入居者様は数人である		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、手紙や年賀状などを書いて送っている。家族より電話がかかれば取り次ぎをしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には季節の応じた飾り付けを行い季節感を出す様にしている。施設内は温湿度計にて温度、湿度を管理している。日光の当たり具合、不快な音を出さない様になど入居者様の意見や希望を参考に職員が管理を行っている	吹き抜けの天井に、木の温もりが伝わってくるような民宿風の作りである。テラスは、広々としたウッドデッキであり、洗濯の干し場や花や野菜作りが楽しめるようにしている。共用空間には対面式の台所があり、本や新聞、テレビなどが置かれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が一緒に過ごしたり、一人でゆっくり過ごせる様に共有空間にはソファや椅子など設置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、自宅で使っていた布団や茶碗など使い慣れたものを持参していただいたり、入居者様の気に入った物、ぬいぐるみ、家族からのプレゼントや家族との写真などを貼ったりして居心地良く過ごせる部屋作りを行っている	一人ひとりの部屋作りは、バスガイドで活躍していた頃の写真、のど自慢出演の写真や木工の好きな方の自作のプロ並みの表札、家族からのプレゼントなど思いおもいの飾りつけがある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置している。各部屋は色で分けており、希望があれば居室のドアに入居者様のお名前を付けたり、トイレのドアにも絵付きでトイレの場所などを記している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	グループホーム みどりの郷こんね なのはな		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番1		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成25年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりとした時間を提供します、一人ひとりの思いを尊重します、地域と共に支援しますという理念を掲げ、落ち着いた時間の中で入居者様の気持ちの寄り添った介護サービスに努めています。入居者様には食器を洗っていただく、洗濯物をたたんでいただく、散歩が好きなど今までの生活を把握しながら出来る事、やりたい事などに目を向けたケアに取り組んでいます。施設の周りは山や田んぼに囲まれてのどかで落ち着いた雰囲気です。施設には庭や小さいですが池もあり、散歩の際には季節の草花を眺めたり、流れる水に触れながらゆっくり歩く事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(こすもすと同様)

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内の目の届くところに理念を掲げて日々意識する様にしている。職員会議にて入居者様一人ひとりについて話し合い、理念に添ったケアを目指している。しかし、完全には実践できていないところもある		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の清掃活動に参加したり、施設で行われる夏祭りは地区の皆様へご案内し、参加していただいている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みに地域の高校生のボランティアの受け入れを行った。その後、教科課題で認知症の勉強の自習の受け入れも行った		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行っている。施設での行事や日頃の様子などを、写真を交えて説明を行っている。外部評価や家族のアンケート結果などを報告している。会議では出席された方より意見や質問をいただき、運営に意見を活かしている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加していただいたり、入所の相談をいただき、短期入所の受け入れを行うなどの連携を行っている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止について勉強会を行い、身体拘束の具体的な行為を資料に添って確認した。拘束排除マニュアルを作成している。玄関は出来るだけ開放するようにしているが、ホール内の職員が1人の時間帯、夕方など時間によってはやむを得ず行うこともある		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様に対しての声のかけ方や介護の方法など、身体的や精神的に虐待がない様に、意識し、注意し合い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の対象の方がいない、支援できていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を交わす際には、契約内容説明後、質問や心配な点がないか伺い、疑問などないように努め、契約書に署名、捺印をいただいている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回行われる運営推進会議の際、にアンケートを実施し、意見や質問、会議で話し合ってもらいたい点など書いていただいている、年に1回無記名のアンケートを実施して意見を伺っている。玄関に意見箱を設置している		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で、意見や要望を聞いている。聞いた意見等は本社に意見を伝えている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加や、資格取得に向けて勤務の調整などを行っている。勤務希望を取り柔軟な対応を行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の案内を張り出し、参加を促している。外部の研修に数名が参加している。法人内の勉強会を行っているが毎月行っていない		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は行えていない。同じグループ内にグループホームが開所し、開所式などに数人の方が訪問している程度である。研修にてグループホームに訪問したが、その他は交流は行えていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった際には、本人様の自宅や、入所中の施設、入院先などに伺い、相談員の方を通してお話を伺っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談があった際には、家族の方には入所前に施設見学をお願いし、施設についての説明を行い、お話をするなどして希望や心配されている事を伺っている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった際には、当施設の説明と、隣の施設や、グループ会社のパンフレットなどもお渡しして紹介をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に施設内の家事など行っていただいた際などには感謝の気持ちを伝えている。また、人生の先輩に分からない事やについて経験談など伺っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に3ヶ月に1度、普段の様子を写真と共に手紙を書いて送付している。面会に来た際には、心配している事など伺い、説明をしたり、一緒に対応を行っている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が面会に来たり、お盆にはお墓参り、家族の方と外出や外泊をしている方はいるが、回数も少なく、外出、面会が出来ているのは数人である。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の人間関係を把握し、入居者様同士が楽しく過ごせる様に、一緒に席に案内している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族が美容師されていて入居者様の散髪に訪問して下さっている。入院加療にて退所された入居者様にはお見舞いに行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日頃の会話、表情、行動からと、家族の方より希望、要望を聞きながら把握に努めている。アセスメントに記録している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話や、家族の方より生活歴やなじんだ物などをアセスメントに書き込み今までの生活の把握に努め、会話をする時などに活かしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、職員間に情報交換、日々の観察にて、入居者様の居心地の良い場所、やりたい事などを把握して。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成の際には入居者様、家族の方より希望を伺い、計画書に内容を盛りこんでいる。職員会議にて目標が達成出来たかを評価したり、課題やサービス内容の見直しを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の変化について、会議で検討した対応や声かけの結果など、また、気づきや変化など入居者様の事について、申し送りノートや個人記録などに記入することにより職員間で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人様より必要物品の購入をしている程度で、入居者様全員の細かな要望にまでは対応できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や本人様の希望で市内の訪問美容師さんに訪問していただき、散髪をしていただいている。佐伯消防署に協力を依頼して避難訓練を行っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族の方の希望があれば、入居前から受診しているかかりつけ医は入所しても変更はせず受診を行っている。定期受診にて入居者様の普段の様子などを報告、相談をしている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務している時は、入居者様の体調の変化を報告し、対応していたが、現在は、看護師が不在である。体調の変化があれば、かかりつけ医に直接相談している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には施設での様子や病状、様子をお伝えしたり、退院の際には、病院の相談員の方から情報をいただいたり連携している。入院中もお見舞いに行き様子を伺っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でどのような対応が可能なのか説明を行っている。重度化の希望書を作成し本人様や御家族様の希望を伺っている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変についての勉強会は定期的に行っていない。マニュアルを作成している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が災害時の対応を身につけていない、3月5日消防署の協力をいただき避難訓練や勉強会の実施を行う予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分注意し、入居者様が気持ちよい声かけ、対応を心がけている。個人情報の取り扱いにも注意し、個人ファイルは戸棚や引き出しに直して見えない様になっている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望、話を傾聴するようにしている。希望をあらわすのに時間がかかっても、ゆっくり時間を取るようにしている。希望を伺うのが困難な方には選びやすいように二者択一にして質問し、希望を伺っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者の希望があれば、希望に添う様に柔軟の対応をしている。状況によっては希望の添えない事もある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が困難な方も好きな服やこだわりたいスタイルを把握し職員が服を決定している。着替えの際には入居者様の希望の服を着ていただき、その方らしさを保てるように対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が嫌いな食材を把握し、替わりの物で対応したり、献立も入居者様のリクエストを取り入れたりしている。育てた野菜と一緒に収穫したり、野菜の皮むきや味見をしていただきアドバイスいただいている。食器洗いやお盆拭きを行ってくださっている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食べる力を把握し、おかずを刻みにしたり、水分にトロミを付け対応している。水分や食事の摂取を記入する表を作成し、摂取量を把握している。水分摂取量が少ない場合は、寒天を作ったりして摂取をうながしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合わせて食後に口腔ケアを行っているが、毎食後行っていない。夕食後が主になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて入居者様の個別の習慣の把握に努めている。時間ごとにトイレの声かけを行っている。なるべくトイレにて排泄ができる様に手すりの位置を変化させたり、トイレの場所など考慮している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、野菜の摂取、牛乳を飲むなどしている。便の状態によっては、主治医に相談している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や入浴日が決まっている。入浴前に入浴の声かけを行って、入浴希望を伺って対応を行っている。入浴剤など活用して入浴が楽しめる様にしている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や、その日の体調を考慮し、ソファー、自室のベッドにて臥床していただいている。夜間は入居者様の好きな時間に就寝する様に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめて薬の説明書のファイルを作成している。しかし、入居者様一人ひとりの薬、副作用について細かな把握は出来ていない		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様や家族の方から伺った生活歴などを参考にしたり、希望を伺って入居者様のやりたい事を行っていただいたり、食べたい物、好きな物を希望した時などに食べていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見など行事などで屋外にでる事はあるが、それ以外は施設内の庭で散歩が殆どである		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していない入居者様が殆どである。お金を所持し、希望した物を購入する入居者様は数人である		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、手紙や年賀状などを書いて送っている。家族より電話がかかれば取り次ぎをしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には季節の応じた飾り付けを行い季節感を出す様にしている。施設内は温湿度計にて温度、湿度を管理している。日光の当たり具合、不快な音を出さない様になど入居者様の意見や希望を参考に職員が管理を行っている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が一緒に過ごしたり、一人でゆっくり過ごせる様に共有空間にはソファや椅子など設置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、自宅で使っていた布団や茶碗など使い慣れたものを持参していただいたり、入居者様の気に入った物、ぬいぐるみ、家族からのプレゼントや家族との写真などを貼ったりして居心地良く過ごせる部屋作りを行っている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置している。各部屋は色で分けており、希望があれば居室のドアに入居者様のお名前を付けたり、トイレのドアにも絵付きでトイレの場所などを記している		